

令和2年度

本科卒業時アンケート調査結果報告書

作成：荒川キャンパス 教務主事
監修：品川キャンパス 教務主事
承認：校長、副校長

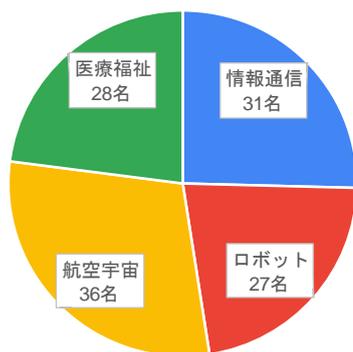
令和2年度 本科卒業時アンケート分析

1. アンケート回答数と回答率

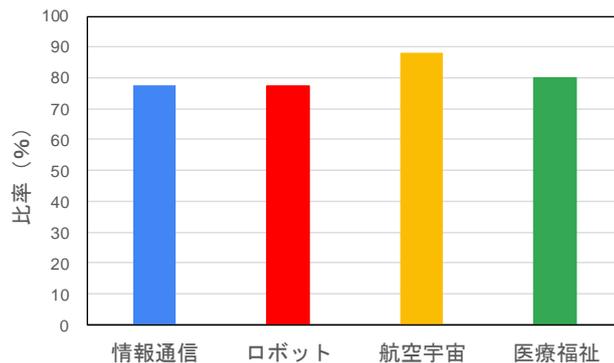
所属コースとしては品川キャンパス4コース（機械システム、生産システム、電気電子、電子情報）と荒川キャンパス4コース（情報通信、ロボット、航空宇宙、医療福祉）の8つに分類して、アンケートでの回答を依頼した。回答数と在籍学生数は以下の通りであった。

機械システム工学コース（品川）	： 0名回答/28名在籍
生産システム工学コース（品川）	： 0名回答/35名在籍
電気電子工学コース（品川）	： 0名回答/44名在籍
電子情報工学コース（品川）	： 0名回答/43名在籍
情報通信工学コース（荒川）	： 31名回答/41名在籍
ロボット工学コース（荒川）	： 27名回答/35名在籍
航空宇宙工学コース（荒川）	： 36名回答/41名在籍
医療福祉工学コース（荒川）	： 28名回答/35名在籍

回答数と比率（全回答数：122名）



コース別回答率



今回、コロナ感染防止の2回目の緊急事態宣言が2021年3月21日まで延長されたため、残念ながら、品川キャンパスの学生からは回答は得られなかった。よって以降、回答のあった荒川キャンパスの4つコースについて分析を行った。

2. 全体の傾向分析

本科としての活動や所属コースでの勉学について14の項目について4段階の評価を行った。結果として、全項目平均で3.17、最大3.39、最小2.74であり、全体としては“当てはまる”である3を超える評価を得ることができた。これより、本科の教育活動はおおむね評価されていると判断できる。しかしながら、「一般科目（国語、外国語、社会等の文系科目）を通じて、幅広い教養が身に付いたか」を問う項目の評価が最も低く、専門的な学修に対して一般教養の学修が評価されていない点は、その原因を探ることが必要だと考える。また、「工学的立場から社会に存在する問題点を発見・解決できたか」を問う項目の評価も低く、今後、エンジニアリングデザインなどの問題解決型授業を推進していく必要がある。最大に高い評価を得たのは「所属コースに対する満足度」であり、これについては当校教員の努力成果が表れた結果として評価できる。

3. 各コースの傾向分析

全項目の平均において、最も高い評価を得たのが情報通信工学コースであった。14項目の評価偏差も最も小さく、全体的に高い評価が得られていることがわかる。一方、評価の平均が最も低いのがロボット工学コースであり、14項目の評価偏差も最も大きい。このことから、全体的には他のコースと同様の高い評価を得ているが、数項目で評価が低くなる項目が存在することが明らかである。特に、「一般科目（国語、外国語、社会等の文系科目）」の評価が他コースに比べて極端に低く、これは本コース学生が受講した特定の科目の評価が極端に低いことが伺える。この結果に対しては、授業アンケートなどと照らし合わせて確認する必要がある。

4. 卒業要件の周知状況

「本科の卒業要件を知っていますか」の問いに対し全員、知っている、あるいは、ほぼ知っていると回答しており、十分に周知がなされていることが確認できた。

5. ディプロマポリシーとの対比

(1)～(6)に示す専攻科のディプロマポリシーに関して、ほとんどの項目で3以上の評価を得ており、卒業生に対してディプロマポリシーの内容を網羅した教育がなされていることが伺える。

(1) 学習力

全コース平均で3.54と高く、特に医療福祉工学コースが高い傾向が見られた。

(2) コミュニケーション力

全コース平均では3.29と高いが、航空宇宙工学コースの評価が他のコースに比べて低い結果となった。この原因については今後、解析が必要となる。

(3) 人間性・社会性

この項目の評価が最も低く、特にロボット工学コースでは回答者の半数近くが「当てはまらない」という評価を行っている。

(4) 基礎力：数学／自然科学

こちらの評価平均は3.11と、多くの授業時間を割いてきた割には評価が低い。一般科目で学んだことが専門学修に生かされていないことが原因ではないかと推察される。

(4) 基礎力：専門

全コース平均で3.13であり、数学/自然科学と同様の結果となった。やはり多くの時間を割いているにもかかわらず評価が低いため、原因を探る必要がある。

(5) 応用力・実践力

全コース平均で2.96であり、実践的な教育の実施に対しては効果があらわれているものの、更なる今後の活性化が必要と判断する。

(6) 創造力

全コース平均で3.29であり、卒業研究への取り組みが積極的に行われていることがわかる。

6. おわりに

専攻科と比較すると、本科においては一般教養や学生生活の充実といった局所的部分で評価が低い項目が存在する。これは専門教育に重点を置いている高等専門学校の従来からの特色ではあるが、卒業生/採用企業などからも改善が望まれている部分でもある。高専は大学より2年少ない学修期間ゆえに対応困難な部分もあるが、質を上げることで改善に努めていく所存である。

以上

R2年度 本科卒業時アンケート

● 情報通信工学
 ● ロボット工学
 ● 航空宇宙工学
 ● 医療福祉工学
 ○ 全体

